

(様式第10)

27岐大病総第89号
平成27年9月30日

東海北陸厚生局長 殿

国立大学法人岐阜大学医学部
附属病院長 小倉真治 印

国立大学法人岐阜大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3の規定に基づき、平成26年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒501-1194 岐阜市柳戸1番1
氏 名	国立大学法人岐阜大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

国立大学法人岐阜大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒 501 - 1194 岐阜市柳戸1番1	電話(058)230-6000
--------------------------	-----------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
② 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有) ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1 消化器内科 2 循環器内科 3 4 5 6 7	
8 9 10 11 12 13 14	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科名等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名等	
1 消化器外科 2 心臓血管外科 3 形成外科 4 5 6 7	
8 9 10 11 12 13 14	
診療実績	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 ⑦産婦人科
8 産科 9 婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 ⑫放射線科 13 放射線診断科
14 放射線治療科 ⑮麻酔科 ⑯救急科

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名等	
1 小児歯科 2 矯正歯科 3 歯科口腔外科 4 5 6 7	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 病理診断科 2 リハビリター 3 4 5 6 7
8 9 10 11 12 13 14
15 16 17 18 19 20 21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
37 床	床	床	床	577 床	614 床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成27年 9月 1日現在)

職 種	常 勤	非 常 勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数	
医 師	356 人	53 人	382.5 人	看護補助者	34 人	診療エック ス線技師	0 人	
歯科医師	11 人	4 人	13.0 人	理学療法士	13 人	臨床検査技 師	49 人	
薬 剤 師	43 人	0 人	43.0 人	作業療法士	3 人			衛生検査技 師
保 健 師	0 人	0 人	0.0 人	視能訓練士	5 人	臨 床 検 査	そ の 他	0 人
助 産 師	16 人	2 人	17.0 人	義肢装具士	0 人	あん摩マッサ ージ指圧師	そ の 他	0 人
看 護 師	544 人	30 人	559.0 人	臨床工学技士	11 人	医療社会事 業従事者	医 療 社 会 事 業 従 事 者	3 人
准看護師	0 人	0 人	0.0 人	栄 養 士	0 人	その他の技術員	そ の 他 の 技 術 員	5 人
歯科衛生士	3 人	0 人	3.0 人	歯科技工士	2 人	事務職員	事 務 職 員	126 人
管理栄養士	11 人	2 人	12.0 人	診療放射線技師	39 人	その他の職員	そ の 他 の 職 員	23 人

(注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。

(注) 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

(注) 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成27年 9月 1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	20 人	眼 科 専 門 医	11 人
外 科 専 門 医	30 人	耳鼻咽喉科専門医	11 人
精神科専門医	4 人	放射線科専門医	12 人
小児科専門医	19 人	脳神経外科専門医	11 人
皮膚科専門医	10 人	整形外科専門医	15 人
泌尿器科専門医	12 人	麻酔科専門医	16 人
産婦人科専門医	14 人	救急科専門医	13 人
		合 計	198 人

(注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	464.6 人	7.7 人	472.3 人
1日当たり平均外来患者数	1,255.2 人	69.0 人	1,324.2 人
1日当たり平均調剤数			767 剤
必 要 医 師 数			120.8 人
必 要 歯 科 医 師 数			5.0 人
必 要 薬 剤 師 数			16.0 人
必 要 (准) 看 護 師 数			283.0 人

(注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。

(注) 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

(注) 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

(注) 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(注) 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要	
集中治療室	129.53 m ²	鉄筋コンクリート	病床数	6床
			人工呼吸装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] [移動式の場合]	床面積 台数	64.06 m ² 7台	心電計 (有)・無 心細動除去装置 (有)・無 ペースメーカー (有)・無 病床数 4床
医薬品情報管理室	[専用室の場合] [共用室の場合]	床面積 共用する室名	54.63 m ²	
化学検査室	437.00 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	生化学自動分析装置
細菌検査室	111.00 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	全自動細菌検査装置
病理検査室	374.00 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	生物顕微鏡、病理診断システム
病理解剖室	252.00 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	ルーム型遺体保冷庫
研究室	724.26 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	超低温フリーザー、分析装置、滅菌装置など
講義室	663.51 m ²	鉄筋コンクリート	室数	11室
図書室	41.77 m ²	鉄筋コンクリート	室数	1室
			収容定員	427人
			蔵書数	900冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

(注) 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成26年 4月 1日～平成27年 3月31日	
紹介率	77.0 %	逆紹介率	46.2 %
算出根拠	A：紹介患者の数		11,445人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		7,726人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		1,408人
	D：初診の患者の数		16,688人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

(注) 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

(注) 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

- (注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。
- (注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	43 人	・膿疱性乾癬	14 人
・多発性硬化症	41 人	・広範脊柱管狭窄症	12 人
・重症筋無力症	45 人	・原発性胆汁性肝硬変	11 人
・全身性エリテマトーデス	155 人	・重症急性膵炎	8 人
・スモン	0 人	・特発性大腿骨頭壊死症	41 人
・再生不良性貧血	19 人	・混合性結合組織病	19 人
・サルコイドーシス	103 人	・原発性免疫不全症候群	11 人
・筋萎縮性側索硬化症	24 人	・特発性間質性肺炎	6 人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	267 人	・網膜色素変性症	6 人
・特発性血小板減少性紫斑病	47 人	・プリオン病	3 人
・結節性動脈周囲炎	24 人	・肺動脈性肺高血圧症	2 人
・潰瘍性大腸炎	147 人	・神経線維腫症	20 人
・大動脈炎症候群	15 人	・亜急性硬化性全脳炎	1 人
・ビュルガー病	3 人	・バッド・キアリ (Budd-Chiari) 症候群	1 人
・天疱瘡	29 人	・慢性血栓性肺高血圧症	0 人
・脊髄小脳変性症	32 人	・ライソゾーム病	6 人
・クローン病	84 人	・副腎白質ジストロフィー	0 人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0 人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0 人
・悪性関節リウマチ	2 人	・脊髄性筋萎縮症	5 人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	75 人	・球脊髄性筋萎縮症	6 人
・アミロイドーシス	6 人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	16 人
・後縦靭帯骨化症	59 人	・肥大型心筋症	2 人
・ハンチントン病	2 人	・拘束型心筋症	0 人
・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	30 人	・ミトコンドリア病	2 人
・ウェゲナー肉芽腫症	10 人	・リンパ管筋腫症(LAM)	0 人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	10 人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0 人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガ症候群)	15 人	・黄色靭帯骨化症	5 人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	4 人	間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常 症、ADH分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常 症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能 低下症)	53 人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 地域歯科診療支援病院歯科初診料	・ 救急搬送患者地域連携紹介加算
・ 歯科外来診療環境体制加算	・ 呼吸ケアチーム加算
・ 特定機能病院入院基本料（一般病棟）（7対1）	・ データ提出加算 2
・ 特定機能病院入院基本料（精神病棟）（13対1）	・ 地域歯科診療支援病院入院加算
・ 臨床研修病院入院診療加算（医科）	・ 救命救急入院料 3 （注3、注5、注7の加算）
・ 臨床研修病院入院診療加算（歯科）	・ 救命救急入院料 4 （注3、注5、注7の加算）
・ 救急医療管理加算	・ 特定集中治療室管理料 4 （注2の加算）
・ 超急性期脳卒中加算	・ 新生児特定集中治療室管理料 2
・ 妊産婦緊急搬送入院加算	・ 新生児治療回復室入院医療管理料
・ 診療録管理体制加算2	・ 小児入院医療管理料 2 （注2の加算）
・ 急性期看護補助体制加算（50対1）	・ 入院時食事療養（I）
・ 看護補助加算 2（精神病棟）（50対1）	・
・ 療養環境加算	・
・ 重症者等療養環境特別加算	・
・ 無菌治療室管理加算 1	・
・ 精神科応急入院施設管理加算	・
・ 精神科身体合併症管理加算	・
・ がん診療連携拠点病院加算	・
・ 医療安全対策加算 1	・
・ 感染防止対策加算 1	・
・ 感染防止対策地域連携加算	・
・ 患者サポート体制充実加算	・
・ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ ハイリスク妊娠管理加算	・
・ ハイリスク分娩管理加算	・
・ 退院調整加算1	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ ウイルス疾患指導料 (特定疾患治療管理料)	・ 時間内歩行試験
・ 植込型除細動器移行期加算 (特定疾患治療管理料 心臓ペースメーカー指導管理料)	・ ヘッドアップティルト試験
・ 高度難聴指導管理料 (特定疾患治療管理料)	・ 人工臍臓
・ 糖尿病合併症管理料 (特定疾患治療管理料)	・ 皮下連続式グルコース測定
・ がん性疼痛緩和指導管理料 (特定疾患治療管理料)	・ 長期継続頭蓋内脳波検査
・ がん患者指導管理料1 (特定疾患治療管理料)	・ 神経学的検査
・ がん患者指導管理料2 (特定疾患治療管理料)	・ 補聴器適合検査
・ がん患者指導管理料3 (特定疾患治療管理料)	・ ロービジョン検査判断料
・ 移植後患者指導管理料 臓器移植後 (特定疾患治療管理料)	・ コンタクトレンズ検査料 1
・ 移植後患者指導管理料 造血幹細胞移植後 (特定疾患治療管理料)	・ 小児食物アレルギー負荷検査
・ 糖尿病透析予防指導管理料 (特定疾患治療管理料)	・ センチネルリンパ節生検 (単独法) 乳がんに係るものに限る
・ 外来リハビリテーション診療料	・ センチネルリンパ節生検 (併用法) //
・ 外来放射線照射診療料	・ CT透視下気管支鏡検査加算
・ ニコチン依存症管理料	・ 画像診断管理加算 2
・ 地域連携診療計画管理料	・ ポジトロン断層撮影
・ がん治療連携計画策定料	・ ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・ がん治療連携管理料	・ CT撮影及びMRI撮影 1.5テスラ (第1MRI)
・ 肝炎インターフェロン治療計画料	・ CT撮影及びMRI撮影 3.0テスラ (第2MRI)
・ 薬剤管理指導料	・ CT撮影及びMRI撮影 1.5テスラ (第3MRI)
・ 医療機器安全管理料 1	・ CT撮影及びMRI撮影 (64列以上のマルチスライスCT) 1台目 第238号 (第3CT室)
・ 医療機器安全管理料 2	・ CT撮影及びMRI撮影 (16以上64列未満のマルチスライスCT) 2台目 (CTシミュレータ室)
・ 医療機器安全管理料 (歯科)	・ CT撮影及びMRI撮影 (16以上64列未満のマルチスライスCT) 3台目 (血管造影室)
・ 歯科治療総合医療管理料	・ CT撮影及びMRI撮影 (16以上64列未満のマルチスライスCT) 4台目 第239号 (第2CT室)
・ 造血器腫瘍遺伝子検査	・ CT撮影及びMRI撮影 (64列以上のマルチスライスCT) 5台目 (第1CT室)
・ HPV核酸検出及びHPV核酸検出 (簡易ジュノタイプ判定)	・ 単純CT撮影及び単純MRI撮影 (マルチスライスCT)
・ 検体検査管理加算 (I)	・ 冠動脈CT撮影加算 (第1CT室 (64列)・第3CT室 (64列))
・ 検体検査管理加算 (IV)	・ 緑内障手術 (緑内障治療用インプラント挿入術 (プレートのあるもの))

施設基準の種類	施設基準の種類
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・人工内耳植込術
・植込型心電図検査	・植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・外傷全身CT加算（第1CT室（64列）・第3CT室（64列））	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型（拡大副鼻腔手術）
・大腸CT撮影加算（第1CT室）	・上顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科）
・大腸CT撮影加算（第2CT室）	・下顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科）
・大腸CT撮影加算（第3CT室）	・乳がんセンチネルリンパ節加算1（併用法）
・心臓MRI撮影加算	・乳がんセンチネルリンパ節加算2（単独法）
・外来化学療法加算1	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）一次一次的再建
・無菌製剤処理料	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）一次二次的再建及び二次再建
・心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）	・経皮的冠動脈形成術
・心大血管疾患リハビリテーション料 初期加算	・経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）
・脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）	・経皮的冠動脈ステント留置術
・脳血管疾患等リハビリテーション料 初期加算	・経皮的中隔心筋焼灼術
・運動器リハビリテーション料（Ⅰ）	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・運動器リハビリテーション料 初期加算	・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術（植込型心電図記録計移植術）
・呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）	・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術（植込型心電図記録計摘出術）
・呼吸器リハビリテーション料 初期加算	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・がん患者リハビリテーション料	・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術
・集団コミュニケーション療法料	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・歯科口腔リハビリテーション料2	・大動脈バルーンパンピング法（IABP法）
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料（治療抵抗性統合失調治療指導管理料に限る。）	・補助人工心臓
・医療保護入院等診療料	・経皮的大動脈遮断術
・歯科技工加算	・ダメージコントロール手術
・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	・体外衝撃波胆石破碎術
・組織拡張器による再建手術（乳房（再建手術）の場合に限る。）一次再建	・腹腔鏡下肝切除術
・組織拡張器による再建手術（乳房（再建手術）の場合に限る。）二次再建	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・骨移植術（軟骨移植術を含む。）（自家培養軟骨移植術に限る。）	・麻酔管理料（Ⅰ）
・脳刺激装置植込術（頭蓋内電極植込術を含む。）及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・麻酔管理料（Ⅱ）
・体外衝撃波膀胱石破碎術	・放射線治療専任加算（第1リニアック室・第2リニアック室）

施設基準の種類	施設基準の種類
・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	・高エネルギー放射線治療
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・強度変調放射線治療（IMRT）（第1リニアック室・第2リニアック室）
・体外衝撃波腎・尿管結石破砕術	・画像誘導放射線治療（IGRT）（第1リニアック室）
・同種死体腎移植術	・直線加速器による放射線治療（定位放射線治療）（第2リニアック室）
・生体腎移植術	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算（第1リニアック室）
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・保険医療機関間の連携による病理診断
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る。）	・病理診断管理加算2
・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6（歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。）に掲げる手術	・口腔病理診断料 病理診断管理加算2
・胃瘻造設術（経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。）（医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術）	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・輸血管理料 I	・歯科矯正診断料
・貯血式自己血輸血管理体制加算	・顎口腔機能診断料〔顎変形症（顎離断等の手術を必要とするものに限る。）の手術前後における歯科矯正に係るもの〕
・自己生体組織接着剤作成術	
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	
・歯周組織再生誘導手術	

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
搬送時間と1ヶ月後の患者状態の関係式を構築し、道路整備によって救急搬送時間が短縮することによる救命率の向上効果等を算定することを目的とした共同研究	小倉 真治	高次救命治療センター	¥1,800,000	補 国土交通省中部 地方整備局岐阜 行動事務所
医療機関における感染制御に関する研究	村上 啓雄	生体支援センター	¥400,000	補 委 厚生労働省
感染制御システムのさらなる向上を目指す研究/特に中小医療施設を対象として	村上 啓雄	生体支援センター	¥183,540	補 委 厚生労働省
院内感染対策研究事業	村上 啓雄	生体支援センター	¥800,000	補 委 岐阜県健康福祉 部医療整備課
岐阜県予防接種センター機能推進事業	村上 啓雄	生体支援センター	¥1,080,000	補 委 岐阜県健康福祉 部保健医療課
緑内障による失明予防に関する包括的研究	山本 哲也	眼科	¥1,300,000	補 委 文部科学省
卵巣明細胞癌における癌幹細胞の同定とその治療抵抗性メカニズムの解明	森重健一郎	産科婦人科	¥4,940,000	補 委 文部科学省
卵巣癌における血管新生阻害薬抵抗性を克服するための治療法開発－HIF阻害剤の導入	鈴木 紀子	産科婦人科	¥3,900,000	補 委 文部科学省
がん微小環境のメタボリックストレス応答を標的とする難治性がん治療のための創薬研究	森重健一郎	産科婦人科	¥1,100,000	補 委 文部科学省
アレルギー発症憎悪における体内時計遺伝子と環境相互の分子遺伝学的解析と臨床展開	近藤 直実	小児科	¥1,040,000	補 委 文部科学省
ケトン体代謝とその異常症の解析－SCOT発現調節機構の解明を中心にして－	深尾 敏幸	小児科	¥1,690,000	補 委 文部科学省
小児呼吸器形成異常・低形成疾患に関する実態調査ならびに診療ガイドライン作成に関する研究	小関 道夫	小児科	¥250,000	補 委 厚生労働省
難治性血管腫・血管奇形・リンパ管種・リンパ管種症および関連疾患についての調査研究	小関 道夫	小児科	¥850,000	補 委 厚生労働省
小児期からの希少難治性消化管疾患の移行期を包含するガイドラインの確立に関する研究	小関 道夫	小児科	¥200,000	補 委 厚生労働省
先天性リンパ管疾患の診療指針作成および病理・細胞生物学的知見の臨床応用へ向けた研究	小関 道夫	小児科	¥1,000,000	補 委 厚生労働省
母乳のダイオキシン類汚染の実態調査と乳幼児の発達への影響に関する研究	松井 永子	小児科	¥400,000	補 委 厚生労働省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
HSD10病の発症形態と患者数の把握、診断基準の作成に関する研究	深尾 敏幸	小児科	¥1,400,000	補 委	厚生労働省
新しい先天代謝異常症スクリーニング時代に適応した治療ガイドラインの作成および生涯にわたる診療体制の確立に向けた調査研究	深尾 敏幸	小児科	¥1,200,000	補 委	厚生労働省
新生児タンデムマススクリーニング対象患者の診療ガイドライン改訂、診療の質を高めるための研究	深尾 敏幸	小児科	¥29,900,000	補 委	厚生労働省
新規医薬品・医療機器等の創出、難治性疾患の治療法の開発および最適な治療法の確立に関する研究	深尾 敏幸	小児科	¥400,000	補 委	厚生労働省
自己炎症性疾患とその類縁疾患の診断基準、重症度分類、診療ガイドライン確立に関する研究	大西 秀典	小児科	¥1,000,000	補 委	厚生労働省
小児期発症脊髄性筋萎縮症に対するバルプロ酸ナトリウム多施設共同医師主導治験準備研究	加藤善一郎	小児科	¥1,000,000	補 委	厚生労働省
原発性免疫不全症候群の診断基準・重症度分類および診療ガイドラインの確立に関する研究	加藤善一郎	小児科	¥500,000	補 委	厚生労働省
原発性免疫不全症候群の病態解明と新規治療法開発への応用に関する研究	加藤善一郎	小児科	¥1,000,000	補 委	厚生労働省
脊髄性筋萎縮症患者細胞により新たに同定した薬剤候補によりiPS細胞を用いた非臨床試験及び薬剤臨床治験準備研究	加藤善一郎	小児科	¥2,500,000	補 委	厚生労働省
免疫寛容誘導に関わるバイオマーカーの網羅的探索とその診断技術の確立	川本 典生	小児科	¥1,820,000	補 委	文部科学省
アレルギー疾患発症の解明に向けたTo11様受容体10を介したシグナル伝達経路解析	久保田一生	小児科	¥1,170,000	補 委	文部科学省
スプライシングオーダー解析による組織特異的な選択的スプライシング機構の解明	堀 友博	小児科	¥1,950,000	補 委	文部科学省
新規IL18阻害剤臨床応用研究及びβ-trefoil型サイトカイン分子標的薬探索	加藤善一郎	小児科	¥1,690,000	補 委	文部科学省
ムコ多糖症に対する新薬治療薬の安全性と効果に関する研究	折居 建治	小児科	¥1,950,000	補 委	文部科学省
クライオパイリン関連周期熱症候群の発症機序の構造生物学的解明	大西 秀典	小児科	¥1,950,000	補 委	文部科学省
難治性血管腫・リンパ管種に対するプロプラノロール療法の確立	小関 道夫	小児科	¥1,400,000	補 委	文部科学省
ヒトゲノムにおけるAlu配列の遺伝性疾患、遺伝的多様性に与える影響に関する研究	深尾 敏幸	小児科	¥5,460,000	補 委	文部科学省
小児リンパ管疾患の実態調査および鑑別診断基準・治療指針の作成	小関 道夫	小児科	¥300,000	補 委	成育医療研究開発費

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
血小板機能検査におけるクロピトグレル不応症の臨床的意義とその対処法	榎本由貴子	脳神経外科	¥2,080,000	補 委 文部科学省
t-PA静注療法の未来への要求	高木 俊範	脳神経外科	¥2,210,000	補 委 文部科学省
脳腫瘍幹細胞の表面マーカーの長期追跡と安定性を保持する機構の解明	大江 直行	医師育成推進センター	¥1,040,000	補 委 文部科学省
悪性脳腫瘍におけるIDH1変異とIGFBP7, COL1A1の役割	副田 明男	高次救命治療センター	¥1,040,000	補 委 文部科学省
睡眠中発症および発症時刻不明の脳梗塞患者に対する静注血栓溶解療法の有効性と安全性に関する臨床試験	榎本由貴子	脳神経外科	¥307,693	補 委 国立循環器病研究センター
プロテオミクスとプロテインアレイを用いたアルツハイマー病に関わる自己抗体の検索	犬塚 貴	神経内科・老年内科	¥700,000	補 委 文部科学省
脳小血管病に関わる抗血管内皮抗体の同定と機能解析：病態解明とバイオマーカーの開発	木村 暁夫	神経内科・老年内科	¥1,100,000	補 委 文部科学省
次世代型電子カルテシステムによる高齢者多剤処方のは正効果に関する研究	林 祐一	神経内科・老年内科	¥1,100,000	補 委 文部科学省
自己抗体が関与する純粋小脳型小脳失調症に関する研究	香村 彰宏	神経内科・老年内科	¥1,100,000	補 委 文部科学省
iPS細胞を用いた筋萎縮性側索硬化症治療薬のスクリーニング法の開発	山田 恵	神経内科・老年内科	¥600,000	補 委 文部科学省
脳アミロイドアンギオパチー関連炎症の病態機序の解明とバイオマーカーの確立	吉倉 延亮	神経内科・老年内科	¥1,000,000	補 委 文部科学省
特発性脳内石灰化症の遺伝子診断に基づいた分類と診療ガイドラインの確立に関する研究	犬塚 貴	神経内科・老年内科	¥100,000	補 委 厚生労働省
スモンに関する調査研究	犬塚 貴	神経内科・老年内科	¥700,000	補 委 厚生労働省
プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究	犬塚 貴	神経内科・老年内科	¥1,000,000	補 委 厚生労働省
Bartonella henselaeを用いた重症虚血肢に対する治療法の確立（基盤C）	島袋 勝也	第一外科	¥780,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
低酸素応答システムを標的とした超音波遺伝子導入による病的心筋リモデリングの制御（基盤C）	松野 幸博	高度先進外科学	¥780,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
肝再生における免疫担当細胞内インフラマソームの活性化とその役割	伊藤 弘康	検査部	¥1,000,000	補 委 先進医薬研究振興財団
NKT細胞活性化と免疫抑制因子の制御を用いた癌転移に対する新規免疫療法の開発	伊藤 弘康	検査部	¥1,560,000	補 委 文部科学省
男子尿道炎における病原体抗菌薬耐性サーベイランスの構築	出口 隆	泌尿器科	¥1,560,000	補 委 文部科学省
膀胱癌における塩酸ゲムシタピン耐性に関与するmiRの同定と作用機構の解明	加藤 卓	泌尿器科	¥1,560,000	補 委 文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
淋菌咽頭感染の効果的な治療法	安田 満	泌尿器科	¥1,430,000	補委 文部科学省
前立腺癌由来エクソソームの解析	水谷 晃輔	泌尿器科	¥1,950,000	補委 文部科学省
化学放射線療法による食道炎に対するボラプレジンの予防効果に関する研究	飯原 大稔	薬剤部	¥500,000	補委 文部科学省
我が国における金属摩耗粉による人工股関節置換術合併所の調査研究	秋山 治彦	整形外科	¥3,000,000	補委 厚生労働省
特発性大腿骨頭壊死症におけるbFGF	秋山 治彦	整形外科	¥76,500,000	補委 厚生労働省
高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための研究	大野 貴敏	整形外科	¥650,000	補委 厚生労働省
多元計算解剖モデルを利用した臓器・組織機能診断支援システム	藤田 廣志	知能イメージ情報分野	¥19,500,000	補委 文部科学省
医用画像に基づく計算解剖学の創成と診断・治療支援の高度化	藤田 廣志	知能イメージ情報分野	¥100,000	補委 文部科学省
医用画像に基づく計算解剖学の多元化と高度知能化診断・治療への展開	藤田 廣志	知能イメージ情報分野	¥100,000	補委 文部科学省
コンピュータ支援診断・検出を活用した歯科医療情報ライブラリの構築	藤田 廣志	知能イメージ情報分野	¥3,000,000	補委 文部科学省
脳血管疾患の早期発見のためのコンピュータ支援診断システムの開発	藤田 廣志	知能イメージ情報分野	¥380,000	補委 科学技術振興機構
体幹部代謝アトラス構築と経時変化を自動追跡するがん治療効果の診断支援	原 武史	知能イメージ情報分野	¥900,000	補委 文部科学省
マルチカメラシンチグラムにおける集積部位の距離計測と高解像度撮影に関する研究	原 武史	知能イメージ情報分野	¥200,000	補委 文部科学省
大規模医用画像データベースの学習と類似画像検索に基づく汎用臓器抽出手順の開発	周 向栄	知能イメージ情報分野	¥1,600,000	補委 文部科学省
乳がん画像診断支援のためのマンモグラム-超音波画像連携システム	村松千左子	知能イメージ情報分野	¥500,000	補委 文部科学省
Diffusion kurtosis imagingを用いた2型糖尿病発症予測	野田 佳史	放射線科	¥2,600,000	補委 文部科学省
肝表面性状解析による肝線維化コンピュータ自動支援診断アルゴリズムの構築	五島 聡	放射線科	¥2,920,000	補委 文部科学省
癒着胎盤帝王切開術の出血量低減を目的としたダブルバルーンカテーテルシステムの開発	近藤 浩史	放射線科	¥1,600,000	補委 文部科学省
非造影MRIを用いた腹部大動脈瘤破裂予測システムの開発	川田 紘資	放射線科	¥1,950,000	補委 文部科学省
I V I M-MR画像を用いた腹部臓器の機能診断および腫瘍の質的診断	渡邊 春夫	放射線科	¥2,370,000	補委 文部科学省
がん研究分野の特性等を踏まえた支援活動	清水 雅仁	第1内科	¥8,400,000	補委 文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
3テスラMRIを用いた子宮筋腫の術前シミュレーションモデルの作成	加藤 博基	放射線科	¥1,170,000	補 委 文部科学省
臨床応用を目的とした放射線治療における再酸化とエネルギー代謝の解明	松尾 政之	放射線科	¥11,180,000	補 委 文部科学省
紫外線による大腸がん制御に関する研究	足立 政治	第1内科	¥1,100,000	補 委 文部科学省
肥満・糖尿病・NASH関連肝発癌抑制に繋がる新規標的分子の解明	清水 雅仁	第1内科	¥1,200,000	補 委 文部科学省
肝癌前駆・幹細胞と肝微小環境構成細胞の解明・肝癌撲滅を目指して	末次 淳	第1内科	¥1,100,000	補 委 文部科学省
非アルコール性脂肪肝疾患と肝レチノイドシグナルの関連性の解明	白上 洋平	第1内科	¥1,000,000	補 委 文部科学省
APC遺伝子ヘテロ変異を有する肥満・糖尿病マウスを用いた大腸発癌機序の解明	久保田全哉	第1内科	¥900,000	補 委 文部科学省
難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究	森脇 久隆	第1内科	¥300,000	補 委 厚生労働省
次世代生命基盤技術を用いたB型肝炎制圧のための創薬研究	清水 雅仁	第1内科	¥1,000,000	補 委 厚生労働省
肝疾患の分子病態解明に基づく新規治療・予防法の確立	清水 雅仁	第1内科	¥110,000	補 委 理化学研究所共同研究
急性骨髄性白血病におけるインドールアミン酸素添加酵素(IDO)の役割	鶴見 寿	第1内科	¥680,000	補 委 文部科学省
レスベラトロールによる悪性リンパ腫再発予防効果の検討	原 武志	第1内科	¥560,000	補 委 文部科学省
ヒト歯髄幹細胞からのiPS細胞誘導の効率化・良質化の検討	柴田 敏之	歯科口腔外科	¥3,510,000	補 委 文部科学省
東南アジアの噛みタバコ習慣と口腔粘膜DNAメチル化異常の擦過標本検討	柴田 敏之	歯科口腔外科	¥3,510,000	補 委 文部科学省
ヒトiPS細胞からのがん幹細胞誘導の試み	柴田 敏之	歯科口腔外科	¥1,690,000	補 委 文部科学省
環境因子による口腔粘膜メチル化異常の経時的解析と脱メチル化による影響の解析	加藤 恵三	歯科口腔外科	¥2,340,000	補 委 文部科学省
ヒト歯髄細胞におけるiPS細胞誘導効率の促進因子の解析	島山大二郎	歯科口腔外科	¥1,560,000	補 委 文部科学省
4NQO誘発ラット舌癌モデルにおけるmicroRNAの解析	米本 和弘	歯科口腔外科	¥1,430,000	補 委 文部科学省
ヒトiPS細胞の誘導効率を高める新規初期化因子の発見	玉置 也剛	歯科口腔外科	¥1,170,000	補 委 文部科学省
高齢者のヒト歯髄細胞からiPS細胞を効率よく樹立するための基礎的検討	飯田 一規	歯科口腔外科	¥1,040,000	補 委 文部科学省
動物因子不含ヒト歯髄由来細胞を用いた脊髄損傷治療モデルの作成	川口 知子	歯科口腔外科	¥1,560,000	補 委 文部科学省

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- (注) 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- (注) 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印を付けた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	山本 哲也	眼科	The 5-year incidence of bleb-related infection and its risk factors following filtering surgeries with adjunctive mitomycin C: CBIITS 2	Ophthalmology 121(5):1001-1006, 2014
2	澤田 明	眼科	Comparison of posture-induced intraocular pressure changes in medically-treated and surgically-treated eyes with open angle glaucoma	Invest Ophthalmol Vis Sci 55(1):446-450, 2014
3	Yasunari Kageyama	高次救命治療センター	Involvement of Rac in thrombozane A2-induced human platelet activation: Regulation of sCD40 ligand release and PDGF-Absecretion	Molecular Medicine Reports
4	Kodai Suzuki	高次救命治療センター	Granulocyte and monocyte adsorption apheresis for generalized pustular psoriasis: therapeutic outcomes in 3 refractory patients	circulation
5	水野 智子	産科婦人科	Cancer stem-like cells of ovarian clear cell carcinoma are enriched in the ALDH-high population associated with an accelerated scavenging system in reactive oxygen species	Gynecologic Oncology. 137(2):299-305. doi : 10.1016/j.ygyno.2014.12.005., 2015
6	鈴木 紀子	産科婦人科	The inhibitory effect of hypoxic cytotoxin on the expansion of cancer stem cells in ovarian cancer.	Biochemical and Biophysical Research Communications (BBRC). 20; 457(4):706-711. doi: 10.1016/j.bbrc.2015.01.053., 2015
7	Kubota K	小児科	Facial palsy as an unusual presenting symptom associated with acute myeloid leukemia.	Pediatr Int. 2014 ;56:e37-40
8	Fukao T	小児科	The first case in Asia of 2-methyl-3-hydroxybutyryl-CoA dehydrogenase deficiency (HSD10 disease) with atypical presentation.	J Hum Genet. 2014 ;59:609-614
9	Yamamoto T	小児科	Functional assessment of the mutational effects of human IRAK4 and MyD88 genes	Mol Immunol. 2014;58:66-76
10	Kimura T	小児科	Purification, crystallization and preliminary X-ray crystallographic analysis of human IL-18 and its extracellular complexes.	Acta Crystallogr F Struct Biol Commun. 2014;70(Pt 10):1351-1356.

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
11	Kubota K	小児科	Clinical and genetic characterization of Japanese sporadic cases of periodic Fever, aphthous stomatitis, pharyngitis and adenitis syndrome from a single medical center in Japan.	J Clin Immunol. 2014;34: 584-593.
12	Fukao T	小児科	Ketone body metabolism and its defects.	J Inherited Metab Dis 37:541-551, 2014
13	Hori T	小児科	Inborn errors of ketone body utilization.	Pediatr Int 57:41-48, 2015
14	Yano H	脳神経外科学	Changes in protein level in the cerebrospinal fluid of a patient with cerebral radiation necrosis treated with bevacizumab.	Clin Med Insights Oncol 8: 153-157, 2014
15	Enomoto Y	脳神経外科	Current perioperative management of anticoagulant and antiplatelet use in neuroendovascular therapy: analysis of JR-NET1 and 2.	Neurol Med Chir (Tokyo) 54: 9-16, 2014
16	Enomoto Y	脳神経外科	Long-term magnetic resonance angiography follow-up for recanalized vessels after mechanical thrombectomy.	J Stroke Cerebrovasc Dis 23: 2834-2839, 2014
17	Egashira Y	脳神経外科学	Real-world experience of carotid artery stenting in Japan: Analysis of 7,134 cases from JR-NET 1 & 2 nationwide retrospective multi-center registry.	Neurol Med Chir (Tokyo) 54: 32-39, 2014
18	Takagi T	脳神経外科	Temporal activation of Nrf2 in the penumbra and Nrf2 activator-mediated neuroprotection in ischemia-reperfusion injury.	Free Radic Biol Med 72: 124-133, 2014
19	Takagi T	脳神経外科	The phosphodiesterase III inhibitor cilostazol ameliorates ethanol-induced endothelial dysfunction.	Curr Neurovasc Res 11: 302-311, 2014
20	Kimura A, Yoshikura N, Koumura A, Hayashi Y, Inuzuka T	神経内科・老年内科	B-cell-activating factor belonging to the tumor necrosis factor family (BAFF) and a proliferation-inducing ligand (APRIL) levels in cerebrospinal fluid of patients with meningoencephalitis	Journal of the Neurological Sciences, 352 (1-2), 79-83, 2015
21	Kimura A, Sakurai T, Yoshikura N, Koumura A, Hayashi Y, Ohtaki H,	神経内科・老年内科	Identification of target antigens of antiendothelial cell antibodies against human brain microvascular endothelial cells in healthy subjects	Current Neurovascular Research, 12 (1), 25-30, 2015
22	ウハダ	高度先進外科学	Use of Shigyaku-san to improve liver function and regeneration after hepatectomy in rats.	Chirurgia 27(3):143-149 2014

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
23	岩田 尚	第一外科	Feasibility of segmental resection in non-small-cell lung cancer with ground-glass opacity.	Eur J Cardiothorac Surg 46(3):375-379 2014
24	石田成吏洋	第一外科	Mitral valve repair for Staphylococcus lugdunensis infective endocarditis: report of a case.	Surgery Today 44(10):1946-1948 2014
25	Shu E	皮膚科	Scleroderma renal crisis following pericardial effusion in a Japanese female.	J Dermatol 41(9):824-826, 2014
26	Fujisawa T	皮膚科	Efficacy of granulocyte and monocyte adsorption apheresis for treatment of palmoplantar pustulosis.	Ther Apher Dial 18(3):238-243, 2014
27	Fujisawa T	皮膚科	A novel <i>TRPS1</i> mutation in a family with tricho-rhino-phalangeal syndrome type 1.	J Dermatol 41(6):514-517, 2014
28	Mizutani Y	皮膚科	Expression of drebrin, an actin binding protein, in basal cell carcinoma, trichoblastoma and trichoepithelioma.	Histol Histopathol 29(6):757-766, 2014
29	Okumura Y	皮膚科	A case of mucocutaneous leishmaniasis diagnosed by serology.	J Dermatol 41(8):739-742, 2014
30	Ishitsuka A	皮膚科	FTY720 and cisplatin synergistically induce the death of cisplatin-resistant melanoma cells through the downregulation of the P13K pathway and the decrease in epidermal growth factor receptor expression.	Int J Mol Med 34(4):1169-1174, 2014
31	Tawada C	皮膚科	Interferon- γ decreases ceramides with long-chain fatty acids: possible involvement in atopic dermatitis and psoriasis.	J Invest Dermatol 134(3):712-718, 2014
32	Tawada C	皮膚科	Successful treatment of anal and perianal condyloma acuminata with imiquimod.	Acta Derm Venereol 94(1):118-119, 2014
33	Kawase K	皮膚科	Inflammatory epidermolysis bullosa acquisita effectively treated with minocycline.	Acta Derm Venereol 94(5):615-616, 2014
34	Ohashi M	皮膚科	A new EDA gene mutation in a family of X-linked hypohidrotic ectodermal dysplasia.	J Dermatol Sci 74(2):175-177, 2014
35	伊藤 弘康	検査部	Induction of hepatitis B virus surface antigen-specific cytotoxic T lymphocytes can be up-regulated by the inhibition of indoleamine 2, 3-dioxygenase activity.	Immunology. 2014 Aug;142(4):614-23.
36	大瀧 博文	検査部	Kynurenine production mediated by indoleamine 2,3-dioxygenase aggravates liver injury in HBV-specific CTL-induced fulminant hepatitis.	Biochim Biophys Acta. 2014 Sep;1842(9):1464-71.
37	星 雅人	検査部	Blockade of indoleamine 2,3-dioxygenase reduces mortality from peritonitis and sepsis in mice by regulating functions of CD11b+ peritoneal cells.	Infect Immun. 2014 Nov;82(11):4487-95.

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
38	Hayashi H	薬剤部	Polaprezinc prevents oral mucositis in patients treated with high dose chemotherapy followed by hematopoietic stem cell transplantation	Anticancer Research 2014; 34: 7271-7
39	Akiyama H	整形外科	LOW-INTENSITY PULSED ULTRASOUND THERAPY STIMULATES CALLUS FORMATION BETWEEN HOST FEMUR AND CORTICAL ONLAY STRUT ALLOGRAFT	Ultrasound Med Biol. 2014;40(6):1197-1203
40	Matsumoto K	整形外科	In vivo kinematics of a low contact stress rotating platform total knee arthroplasty system under weight bearing and non-weight bearing condition	J Orthop Sci. 2014;19(5):750-755
41	Masuda T	整形外科	Clinical Outcomes of Surgical Treatments for Traumatic Spinal Injuries due to Snowboarding	Asian Spine Journal. 2015-Feb;9(1):90-98
42	Nagano A	整形外科	Malignant solitary fibrous tumor of the lumbar spinal root mimicking schwannoma: a case report	Spine J. 2014;14(1):E17-20
43	Takigami I	整形外科	Proximal femoral reconstruction with impaction bone grafting and circumferential metal mesh	J Orthop Sci. MAR 2015;20(2):331-339
44	Ogawa H	整形外科	Mechanical motion promotes expression of Prg4 in articular cartilage via multiple CREB-dependent, fluid flow shear stress-induced signaling pathways	Genes Dev. 2014;28(2):127-139
45	Terabayashi N	整形外科	Increased blood flow in the anterior humeral circumflex artery correlates with night pain in patients with rotator cuff tear	J Orthop Sci. 2014;19(5):744-749
46	Shimokawa T	整形外科	Trachea-Thoracic Vertebral Body Fistula Causing Spinal Cord Injury A Case Report	Spine. 2014;39(10):E657-659
47	Ishimaru D	整形外科	Alterations in the Chondroitin Sulfate Chain in Human Osteoarthritic Cartilage of the Knee	Osteoarthritis Cartilage. 2014;22(2):250-258
48	五島 聡	放射線科	Image quality and radiation exposure in CT of the pancreas: 320-MDCT with and without adaptive iterative dose reduction versus 64-MDCT	Clinical radiology. 2013;68(11):e593-600
49	五島 聡	放射線科	Determination of optimal intravenous contrast agent iodine dose for the detection of liver metastasis at 80-kVp CT.	European radiology. 2014;24(8):1853-1859.
50	兼松 雅之	放射線科	Low-Iodine-Load and Low-Tube-Voltage CT Angiographic Imaging of the Kidney by Using Bolus Tracking with Saline Flushing.	Radiology. 2014: doi: 10.1148/radiol.141457.
51	兼松 雅之	放射線科	Whole-body CT angiography with low tube voltage and low-concentration contrast material to reduce radiation dose and iodine load.	American journal of roentgenology. 2014;202(1):W106-116

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
52	野田 佳史	放射線科	reduction of iodine load in CT imaging of pancreas acquired with low tube voltage and an adaptive statistical iterative reconstruction technique.	Journal of computer assisted tomography. 2014;38(5):714-720
53	渡邊 春夫	放射線科	Characterizing focal hepatic lesions by free-breathing intravoxel incoherent motion MRI at 3.0 T.	Acta radiologica (Stockholm, Sweden : 1987). 2014;55(10):1166-1173
54	田中 秀和	放射線科	Impact of respiratory motion on breast tangential radiotherapy using the field-in-field technique compared to irradiation using physical wedges.	Radiol Oncol 48: 94-98 (2014)
55	加藤 博基	放射線科	Diffusion-weighted imaging of ovarian torsion: usefulness of apparent diffusion coefficient (ADC) values for the detection of hemorrhagic infarction.	Magn Reson Med Sci. 2014;13:39-44
56	大宝 和博	放射線科	Preliminary clinical outcomes of image-guided 3-dimensional conformal radiotherapy for limited brain metastases instead of stereotactic irradiation referral.	Anticancer Res. 2014 Jun;34(6):2997-3005.
57	Shimizu M, et al	第1内科	A newly synthesized compound, 4'-geranyloxyferulic acid-N(omega)-nitro-l-arginine methyl ester suppresses inflammation-associated colorectal carcinogenesis in male mice.	Int J Cancer 2014;135:774-784.
58	Goto N, et al	第1内科	Serum soluble tumor necrosis factor receptor 1 level is associated with the outcome of diffuse large b-cell lymphoma patients treated with the CHOP or R-CHOP regimen.	J Clin Exp Hematop 2014;54:117-127.
59	Iwashita T, et al	第1内科	Successful management of biliary stones in the hepatic duct after a whipple procedure by using an EUS-guided antegrade approach and temporary metal stent placement.	Gastrointest Endosc 2014;80:337.
60	Imai K, et al	第1内科	Impact of serum chemerin levels on liver functional reserves and platelet counts in patients with hepatocellular carcinoma.	Int J Mol Sci 2014;15:11294-11306.
61	Kubota M, et al	第1内科	Combinaion of Bevacizumab and Acyclic Retinoid Inhibits the Growth of Hepatocellular Carcinoma Xenografts.	J Nutr Sci Vitaminol 2014;60:357-362.
62	Kochi T, et al	第1内科	Preventive effects of captopril, an angiotensin-converting enzyme inhibitor, on the development of azoxymethane-induced colonic preneoplastic lesions in diabetic and hypertensive rats.	Oncol Lett 2014;8:223-229.
63	Ohnishi , et al	第1内科	Premature termination of reprogramming in vivo leads to cancer development through altered epigenetic regulation.	Cell 2014;156:663-677.

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
64	Nakanishi T, et al	第1内科	Risk factors for pyrexia after endoscopic submucosal dissection of gastric lesions.	Endoscopy International Open 2014;2:E141.
65	Hanai T, et al	第1内科	Free fatty acid as a marker of energy malnutrition in liver cirrhosis.	Hepatol Res 2014;44:218-228. 19. Mabuchi M, Iwashita T, Yasuda I, Okuno M, Uemura S, Nakashima M, Doi S, A
66	Mabuchi M, et al	第1内科	Endoscopic papillary large balloon dilation as a salvage procedure for basket impaction during retrieval of common bile duct stones.	Dig Dis Sci 2014;59:220-223.
67	Nakamura N, et al	第1内科	Lenalidomide-induced cytokine release syndrome in a patient with multiple myeloma.	Leuk Lymphoma 2014 ;55:1691-1693.
68	Ohtaki H, et al	第1内科	Kynurenine production mediated by indoleamine 2,3-dioxygenase aggravates liver injury in HBV-specific CTL-induced fulminant hepatitis.	Biochim Biophys Acta 2014;1842:1464-1471.
69	Katayama K, et al	第1内科	Effect of zinc on liver cirrhosis with hyperammonemia: a preliminary randomized, placebo-controlled double-blind trial.	Nutrition 2014;30:1409-1414.
70	Kawaguchi T, et al	第1内科	Branched-chain amino acids prevent hepatocarcinogenesis and prolong survival of patients with cirrhosis.	Clin Gastroenterol Hepatol 2014;12:1012-1018.
71	Takata K, et al	第1内科	Duodenal follicular lymphoma: comprehensive gene expression analysis with insights into pathogenesis.	Cancer Sci 2014;105:608-615.
72	Yasuda I, et al	第1内科	Tips for endoscopic ultrasound-guided fine needle aspiration of various pancreatic lesions.	J Hepatobiliary Pancreat Sci 2014;21:E29-
73	Nakai Y, et al	第1内科	Confocal laser endomicroscopy in gastrointestinal and pancreatobiliary diseases.	Dig Endosc 2014;26 Suppl1:86-94.
74	Hiroshima Y, et al	第1内科	Efficacy of Salmonella typhimurium A1-R versus chemotherapy on a pancreatic cancer patient-derived orthotopic xenograft (PDOX).	J Cell Biochem 2014;115:1254-1261.
75	Nishimura J, et al	第1内科	Genetic variants in C5 and poor response to eculizumab.	N Engl J Med. 2014 Feb 13;370(7):632-9.
76	Hanai T, et al	第1内科	Sarcopenia impairs prognosis of patients with liver cirrhosis.	Nutrition 2015;31:193-199.
77	玉置 也剛	歯科口腔外科	The homeobox gene DLX4 promotes generation of human induced pluripotent stem cell	Scientific Reports 2014 Dec 4;4:7283

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
78	川口 知子	歯科口腔外科	Derivation of iPSCs after culture of human dental pulp cells under defined conditions	PLoS One. 2014 Dec 18;9(12):e115392
79	kudo D, Inden M, Sekine S, Tamaoki N, Iida K, Naito E, Watanabe K, Kamishina H, Shibata T, Hozumi I. 歯科口腔外科	歯科口腔外科	Conditioned medium of dental pulp cells stimulated by Chinese propolis show neuroprotection and neurite extension in vitro.	Neurosci Lett. 2015 Mar 4;589:92-7.
80	kamino Y, Kurashige Y, Uehara O, Sato J, Nishimura M, Yoshida K, Arakawa T, Nagayasu H, saito H, Abiko Y. 歯科口腔外科	歯科口腔外科	HBD-2 is downregulated in oral carcinoma cells by DNA hypermethylation, and increased expression of hBD-2 by DNA demethylation and gene transfection inhibits cell proliferation and invasion.	Oncol Pep 2014 32(2):462-8
81	Uehara O, Abiko Y, Saito M, Miyakawa H, Nakazawa F. 歯科口腔外科	歯科口腔外科	Lipopolysaccharide extracted from Porphyromonas gingivalis induces DNA hypermethylation of runt-related transcription factor 2 in human periodontal fibroblasts.	J Microbiol Immunol Infect. 2014 47(3) 176-81
82	kato H, kanematsu M, Makita H, Kato K, Hatakeyama D, Shidata T, Mizuta K, Aoki M. 歯科口腔外科	歯科口腔外科	CT and MR imaging findings of palatal tumora.	Eur J Radiol. 83(3):e137-46, 2014
83	山下 知己	歯科口腔外科	Effects of smoking and alcohol consumption on 5-fluorouracil-related metabolic enzymes in oral squamous cell carcinoma.	Mol Clin Oncol. 2(3):p429-434, 2014
84	多和田昌宏	腫瘍外科	Possible involvement of tumor-producing VEGF-A in the recruitment of lymphatic endothelial progenitor cells from bone marrow.	Oncology Report 32:2359-2364, 2014
85	長田 真二	腫瘍外科	Surgical Indications for Multiple and Synchronous Liver Metastases from Colorectal Cancer.	Hepato-Gastroenterology 61:722-726, 2014
86	松橋 延壽	腫瘍外科	A case report on efficacy of Abound for anti-EGFR antibody-associated skin disorder in metastatic colon cancer.	World Journal of Surgical Oncology 12:35, 2014
87	松橋 延壽	腫瘍外科	A Single Case of Single-Port Access Laparoscopic Appendectomy During the Puerperium.	International Surgery 2015 100:101-104, 2015

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
88	二村 学	乳腺・分子学講座	Prediction of macrometastasis in axillary lymph nodes of patients with invasive breast cancer and the utility of the SUV lymph node/tumor ratio using FDG-PET/CT.	World Journal of Surgical Oncology 13:49, 2015
89	森 龍太郎	腫瘍外科	P-glycoprotein plays an important role in the cross-resistance to taxanes in 5FU-resistant gastric cancer cells.	Transl Gastrointest Cancer 2015 4(2):123-130, 2015

計 89

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- (注) 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- (注) 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- (注) 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- (注) 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- (注) 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 ・ 医学研究等の立案・提出について ・ 予備審査について ・ 委員会の審議・判定について ・ 医学系研究科長等の通知について ・ 研究計画書の修正について ・ 医学研究等の開始について	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 ・ 委員会の組織について ・ 委員の任期について ・ 委員会の開催について ・ 委員の守秘義務について ・ 審議結果の報告について	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年12回

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年12回
・ 研修の主な内容 医学研究等倫理審査委員会委員長が講師として医学研究等を行う者を対象に、医学研究等に関する倫理、その他医学研究等の実施に必要な知識について講習を行っている。	

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

岐阜大学医学部附属病院は、先進医療を提供し、地域医療の中核を担う能力を備えた医師を育成するため、2年間の初期研修を修了した医師を対象に、その分野での卓越した専門医の育成を行っている。

○優れた指導医によるきめ細かい指導体制
診療科別に研修コースを設置し、優れた知識と経験をもつ多数の指導医の下で質の高い研修を実施。
メジャーな診療科だけでなく大学病院ならではのマイナー科と呼ばれる診療科にも多数の指導医を配置。

○豊富な知識・経験を持つ専門医を育成
大学病院や関連病院で豊富な臨床経験を積み基礎的な力を養いながら専門医を取得でき、また、大学院へ進むことも可能で、希望者は基礎研究、臨床研究を行い、医学博士の取得を目指すことも可能。

○診療科の垣根を越えたローテーション
希望に応じて異なる診療科において臨床研修が可能であり、複数の専門医を取得することも可能。

○豊富な機材を利用したシミュレーション教育
岐阜大学医学部附属病院が所有している内視鏡手術トレーニングセンターのシミュレーターを利用したトレーニングを実施。

○研修例
・1～2年目 岐阜大学病院あるいは学会指定施設・関連施設
・3～5年目 学会指定施設・関連施設
・6年目以降 専門医取得→各種領域専門医申請

2 研修の実績

研修医の人数	115人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
白木 亮	内科・消化器内科	医局長	19年	
西垣 和彦	内科・循環器内科	医局長	29年	
諏訪 哲也	内科	医局長	21年	
犬塚 貴	内科	診療科長	38年	
山内 雅裕	内科	病棟医長	13年	
岩田 尚	外科・心臓血管外科	副科長	26年	
山口 和也	外科・消化器外科	医局長	27年	
早崎 容	産婦人科	外来医長	19年	
松本 和	整形外科	医局長	21年	
岩間 亨	脳神経外科	診療科長	31年	
澤田 明	眼科	医局長	23年	
水田 啓介	耳鼻咽喉科	診療科長	32年	
加納 宏行	皮膚科	医局長	19年	
安田 満	泌尿器科	医局長	21年	
深尾 琢	精神科	医局長	23年	
深尾 敏幸	小児科	診療科長	29年	
富松 英人	放射線科	医局長	17年	
熊澤 昌彦	麻酔科	講師	17年	
牧田 浩樹	歯科	医局長	23年	
吉田 隆浩	救急科	医局長	21年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

- ① 感染管理コース：所属部署における役割もモデルとなり、感染管理活動を実践・推進できる院内認定のナースを育成する。講義・演習、課題レポート、院外セミナー等の受講、院内認定試験。
- ② がん看護コース：所属部署でがん看護に関する役割モデルとなり、活動を実践・推進できる看護部認定ナースを育成する。講義・演習、課題レポート、院外セミナー等の受講。
- ③ がん看護フォローアップ研修：がん看護コースで習得したがん看護の基本的な知識・技術を駆使して、がん患者と家族に対してそれぞれの苦痛を把握し、緩和ケアを適切に実践できる看護実践者の育成をすること目的とする。課題レポート。
- ④ 褥瘡ケアコース：所属部署で褥瘡予防およびケアに関する役割モデルとなり、活動を実践・推進できる看護部認定ナースを育成する。講義・演習、課題レポート、院外セミナー等の受講、院内認定試験。
- ⑤ 集中ケアフォローアップコース：各所属部署で役割意識をもち、急性期看護を行っていくうえでのリーダー役割を遂行できる看護師を育成する。業務改善、課題レポート。
- ⑥ 診療用高エネルギー放射線発生装置（直線加速器等）、診療用放射線照射装置に係る定期研修会
- ⑦ 装置更新にともなう新規医療安全研修会 診断用エックス線装置（第3血管造影装置）
- ⑧ 検査部セミナー（症例検討を含む。）
- ⑨ 薬剤部セミナー（新規薬剤、適正使用、医療安全に関する周知を含む）

・研修の期間・実施回数

- ① 感染管理コース：平成26年5月19日～7月4日、講義・演習は2日間
- ② がん看護コース：平成26年5月21日～7月25日、講義・演習は2日間
- ③ がん看護フォローアップ研修：平成26年6月26日～平成27年2月26日、講義・演習は2時間×5回
- ④ 褥瘡ケアコース：平成26年5月23日～6月30日、講義・演習は2日間
- ⑤ 集中ケアフォローアップコース：平成26年5月28日～10月30日
- ⑥ 定期研修会：第1回 平成26年4月18, 23日、第2回 平成26年11月10日
- ⑦ 新規医療安全研修会：平成26年6月26日、1回
- ⑧ 検査部セミナー：1～2回／月
- ⑨ 薬剤部セミナー：3～4回／月

・研修の参加人数

- ① 感染管理コース：12名
- ② がん看護コース：9名
- ③ がん看護フォローアップ研修：10名
- ④ 褥瘡ケアコース：11名
- ⑤ 集中ケアフォローアップコース：8名
- ⑥ 定期研修会：第1回 15名、第2回 16名
- ⑦ 新規医療安全研修会：41名(医師7名、医師以外34名)
- ⑧ 検査部セミナー：25～30名
- ⑨ 薬剤部セミナー：30～40名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

- ① リーダーの在り方と問題解決：リーダーシップ、コーチング、問題解決技法、自部署の業務改善実践と報告。
- ② リーダーナースとしての業務管理：組織における自分たちの位置づけと役割を理解し、業務を遂行する上でリーダーナースとしての物品管理について必要な知識を習得する。
- ③ 災害看護：大規模災害における大学病院や看護師の役割を学び、患者の安全、指示命令系統、情報伝達、治療について理解できる。シミュレーション研修
- ④ 管理者研修：「病院の経営」と「モノの管理」について、管理者の病院経営に対する意識を高め、どのように経営に参画するか考える。

・研修の期間・実施回数

- ① リーダーの在り方と問題解決：平成26年6月13日、講義・演習は1日。
- ② リーダーナースとしての業務管理：平成26年8月8日、講義60分。
- ③ 災害看護：平成26年7月11日、講義・演習は1日。
- ④ 管理者研修：平成26年6月18日、10月25日。講義・演習は1日と2時間

- ・研修の参加人数
- ① リーダーの在り方と問題解決：23名
- ② リーダーナースとしての業務管理：21名。
- ③ 災害看護：36名。
- ④ 管理者研修：第1回67名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・研修の主な内容

・研修の期間・実施回数

・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 2. (現状)
管理責任者氏名	病院長 小倉 真治
管理担当者氏名	事務部長 生熊道憲 総務課長 長谷川浩一 経営企画課長 松村規義 医事課長 一井信吾 医療支援課長 福井隆 看護部長 廣瀬泰子 生体支援センター長 村上啓雄 放射線部長 松尾 政之 高次救命治療センター長 小倉真治 薬剤部長 伊藤善規

	保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医事課 経営企画課 各診療科 放射線部 手術部 薬剤部 看護部	法律の規程に定められた保存年数を「国立大学法人岐阜大学法人文書ファイル保存要領」に基づき保管している。	
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	法律の規程に定められた保存年数を「国立大学法人岐阜大学法人文書ファイル保存要領」に基づき保管している。
	高度の医療の提供の実績	医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	研究支援係（医学系研究科・医学部事務）	
	高度の医療の研修の実績	総務課	
	閲覧実績	総務課、医療支援課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医療連携センター	
入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部		
第規 一則 号第 一 掲 条 の 一 十 一 第 一 項 確 保 各 の 号 状 及 び 第 九 条 の 二 十 第 一 項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理室	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	生体支援センター	
	医療に係る安全管理を行う部門の配置状況	医療安全管理室	
当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理室		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則	院内感染のための指針の策定状況	生体支援センター
	第一条	院内感染対策のための委員会の開催状況	医療支援課
	第十一条	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	生体支援センター
	第一項各号及び第九條の二十三	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	生体支援センター
	第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	医療安全管理室 医療支援課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理室 医療支援課
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療安全管理室 医療支援課	
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理室 医療支援課	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 2. 現状
閲覧責任者氏名	事務部長 生熊道憲
閲覧担当者氏名	医事課長 一井信吾
閲覧の求めに応じる場所	医事課・医療支援課事務室内 カルテ閲覧室

閲覧の手続の概要

閲覧しようとする者は、閲覧申込書を原則として、閲覧を希望する2週間前までに提出し、病院長の承認を得る。

病院長は、前項の申込みを適当と認めるときは、閲覧承認書を交付。

閲覧に関しては、閲覧担当者が立ち会う。ただし、閲覧担当者に事故があるとき又は閲覧する諸記録によっては、あらかじめ閲覧責任者が指名する者が立ち会う。

閲覧を承諾された者は、閲覧に立ち会う本学職員の指示に従い、万一従わない場合は、閲覧を中止する。

諸記録の貸出し、複写及び撮影は行わない。

(注) 既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0件
閲覧者別	医師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	0件
	地方公共団体	延	0件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第6)

規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">○医療に係る安全管理の委員会その他医療機関内の組織に関する基本的事項○医療に係る安全管理のための職員研修に関する基本的事項○医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保をの目的とした改善に関する基本方針○医療事故（過誤）、重大事象発生時の対応に関する基本方針○行動制限防止のための指針○患者に係る当該指針の閲覧に関する基本方針○その他医療安全の推進のための基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容： 「医療安全管理委員会」</p> <ul style="list-style-type: none">○インシデントレポート分析，防止（改善）策に関すること○医療事故防止対策の検討及び推進に関すること○医療事故防止対策に関する職員研修の企画に関すること	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 24 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">○第1回医療安全・感染対策合同研修会<ul style="list-style-type: none">医療安全 「ジャクソンリリースについて」：高次救命治療センター 臨床講師 生体支援センター RSTリーダー 吉田 省造医療安全 「院内救急対応（RRS・エマジコール）」：高次救命治療センター 臨床講師 名知 祥感染対策 「適切な検体採取の方法について」：感染制御認定臨床微生物検査技師 太田 浩敏○第2回医療安全・感染対策合同研修会<ul style="list-style-type: none">医療安全 「AEDの使い方」：株式会社フィリップスエレクトロニクスジャパン 西田 哲雄医療安全 「後発品切替に伴う注意点について」：薬剤部 副薬剤部長 安田 浩二感染対策 「エボラ出血熱について」：生体支援センター 副センター長 渡邊 珠代 生体支援センター センター長 村上 啓雄○人工呼吸器管理研修会（呼吸療法チームメンバー）（2回）○新採用・中途採用職員研修（研修医・医師・看護師・技師など）（6回）○研修医研修（7回）○看護部研修（5回）○新任リスクマネージャー研修（1回）○中心静脈カテーテルハンズオンセミナー（1回）	

<p>④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有)・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ○ 頸部術後管理ガイドライン作成 ○ CVチェックリスト改定 ○ インスリンブック改定 ○ 条件付きMR I 対応ペースメーカー装置患者のMR I 検査オーダーフロー作成 ○ 造影CT、MR I オーダー時の腎機能検査確認フローチャート作成 ○ RRS 試行 ○ メトホルミン製剤休薬についての基準変更 ○ MR I 入室時チェックリスト作成
<p>⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況</p>	<p>(有) (2 名) ・ 無</p>
<p>⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況</p>	<p>(有) (4 名) ・ 無</p>
<p>⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況</p>	<p>(有) ・ 無</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属職員： 専任 (3) 名 兼任 (8) 名 (安全管理) ・ 所属職員： 専任 (4) 名 兼任 (16) 名 (院内感染対策) ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ○ 医療安全に係る啓蒙及び広報に関すること ○ 医療の安全確保のため、医療現場との連絡調整に関すること ○ 医療の安全確保に係る職員研修の企画立案に関すること ○ インシデントに関する情報の収集及び分析、関係資料作成に関すること ○ 医療事故再発防止対策等の立案と周知徹底並びに改善に関すること ○ 微生物の検出状況の把握、分析およびアウトブレイクの早期発見と対応 ○ 感染症、感染対策全般のコンサルテーション ○ 抗菌薬の適正使用の推進 ○ ガイドライン・マニュアルの作成や改訂 ○ 感染防止対策の周知徹底；マニュアルの遵守状況の把握と指導 ○ 針刺し・切創および皮膚・粘膜暴露対応 ○ 各種ワクチンプログラムの実施 ○ 職員教育；研修の企画および実施 	
<p>⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況</p>	<p>(有) ・ 無</p>

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の整備状況	有 ・ 無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ○病院感染対策に関する基本的な考え方 ○病院感染対策の組織 ○職員教育・研修に関する基本方針 ○感染症発生状況の報告に関する基本方針 ○病院感染発生時の対応に関する基本指針 ○患者への情報提供と説明 ○病院における院内感染対策の推進 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容： 院内感染対策委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ○病院感染の発生状況、抗菌薬の使用状況について ○病院感染対策の検討および推進に関すること ○病院感染対策に係る職員研修の企画に関すること ○病院感染対策に係る啓蒙及び広報に関すること ○病院感染発生時の医療現場との連絡調整に関すること 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 22 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>1) 生体支援センターセミナー（全職員対象）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○検体採取の方法&細菌検査の実際：検査部細菌検査室 感染制御認定臨床微生物検査技師 太田 浩敏，中山 麻美 ○血管内カテーテル関連血流感染と感染防止技術：感染管理認定看護師 山本 昌代 ○術後の異常を見落とさないために： <ul style="list-style-type: none"> 集中ケア認定看護師 杉原博子，集中ケア認定看護師 瀧 寛子，救急看護認定看護師 山下 浩司 ○人工呼吸器関連肺炎と感染防止対策：生体支援センター RSTリーダー 吉田 省造 ○栄養補給法：椋山女学園大学 生活科学部管理栄養学科 教授 加藤 昌彦 先生 ○新型インフルエンザ発生時のBCPについて：大阪医科大学 内科学総合診療科 教授 浮村 聡先生 ○認定看護師から学ぶ易感染患者の管理について：がん化学療法看護認定看護師 市成 陽子，感染管理認定看護師 土屋麻由美，糖尿病看護認定看護師 古田 均 <p>2) 医療安全・感染対策合同研修会</p> <ul style="list-style-type: none"> ○第1回医療安全・感染対策合同研修会 <ul style="list-style-type: none"> 医療安全 「ジャクソンリリースについて」：高次救命治療センター 臨床講師，生体支援センター RSTリーダー 吉田 省造 医療安全 「院内救急対応（RRS・エマジコール）」：高次救命治療センター 臨床講師 名知 祥 感染対策 「適切な検体採取の方法について」：感染制御認定臨床微生物検査技師 太田 浩敏 ○第2回医療安全・感染対策合同研修会 <ul style="list-style-type: none"> 医療安全 「AEDの使い方」：株式会社フィリップスエレクトロニクスジャパン 西田 哲雄 医療安全 「後発品切替に伴う注意点について」：薬剤部 副薬剤部長 安田 浩二 感染対策 「エボラ出血熱について」：生体支援センター 副センター長 渡邊 珠代 生体支援センター センター長 村上 啓雄 <p>3) 新入職員研修（全新入職員対象）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○病院感染対策の基本：生体支援センター村上啓雄、渡邊珠代 <p>4) 看護師研修（リーダー看護師対象）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「感染管理コース」（7時間×2回）：ICN 深尾亜由美、土屋麻由美、垣見克紀、山本昌代 医師：田中香お里 <p>5) 看護助手研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ○病院感染対策の基本：生体支援センター土屋麻由美 <p>6) 育児休業からの職場復帰プログラム（3回）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○感染対策の現状：生体支援センター土屋麻由美 <p>7) 中途採用者研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ○病院感染対策の基本（5回）：生体支援センター村上啓雄、渡邊珠代 <p>8) 清掃業者・診療報酬外注業者研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日常生活における感染対策について：生体支援センター 土屋麻由美 	

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有)・無)

・ その他の改善のための方策の主な内容：

- 感染防止推進月間の実施（院内ラウンド、自己チェック）
- 抗菌薬の適正使用のための薬剤師による抗菌薬投与患者の評価および介入
- 手指衛生遵守向上に関する取り組み（速乾性擦式消毒剤の使用量のモニタリング等）
- アウトブレイクが疑われた場合は、各部署へ情報提供及び指導の徹底

(様式第6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
・研修の主な内容： 平成26年4月4日 新入職員研修会 平成26年5月28日 新規採用看護師研修会 平成27年1月26日～2月2日 医療安全・感染対策研修会	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・手順書の作成 (有)・無) ・業務の主な内容： 業務手順書は電子カルテのオンラインマニュアル上に掲載し、常に業務手順が確認できるようにしており、必要に応じて随時改訂を行っている。また、業務手順書に準拠したチェックリストを作成し、年2回(1月、6月)院内全部署を対象として業務の実施状況を評価しており、業務手順書が遵守できていない業務が認められれば、業務の見直し、改善を行っている。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・医薬品に係る情報の収集の整備 (有)・無) ・その他の改善のための方策の主な内容： 厚生労働省、PMDA、製薬会社、書籍、インターネット等を介して、常に最新の医薬品情報を入手している。収集した情報は評価・加工して、院内の職員に対して情報(DIニュース等)を配信しており、さらに病棟担当薬剤師が病棟スタッフ(医師、看護師等)に対して直接情報提供を行っている。院内ホームページにて最新の医薬品情報を発信するとともに、全ての医療スタッフが電子カルテから最新の添付文書を閲覧できる環境を整備している。	

(様式第6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 38 回
<p>・研修の主な内容：</p> <p>○新規購入医療機器（16回） ○保育器（3回） ○人工呼吸器（3回） ○血液浄化機器（1回） ○高エネルギー放射線発生装置（4回） ○人工心肺装置及び補助循環装置（4回） ○超音波画像診断装置 ○内視鏡装置 ○微量血液凝固計 ○循環動態モニタリングシステム（3回） ○低侵襲血行動態モニタリングシステム</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・計画の作成 (有)・無</p> <p>・保守点検の主な内容：</p> <p>○人工呼吸器、人工心肺装置、除細動装置、十二誘導心電計、血液浄化装置、輸液ポンプ、シリンジポンプ、超音波ネブライザーは使用毎の保守点検を医療機器センターで実施 ○血液浄化部の多人数用血液透析装置は2年に1度業者による点検実施 ○放射線装置は期限毎に業者と保守点検の契約を結び実施（機器により、半年から2年毎）</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・医療機器に係る情報の収集の整備 (有)・無</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>○人工呼吸器について…医療機器センター技士による人工呼吸器管理中患者のラウンドを週2回実施 呼吸療法支援チームの活動として、病棟の人工呼吸器管理患者のラウンドを週2回実施 会議では、人工呼吸器関連のインシデント報告や情報を検討し院内に周知 ○医療機器安全管理組織の編成</p>	

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
<ul style="list-style-type: none">・評価を行った機関名、評価を受けた時期・評価を行った機関名 公益財団法人日本医療機能評価機構・評価を受けた次期 認定期間 2011. 9. 25～2016. 9. 24	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
<ul style="list-style-type: none">・情報発信の方法、内容等の概要・病院ホームページを活用し特定機能病院として果たしている役割に関する情報を随時発信している。・病院広報誌（鵜舟）を定期的に発行し来院者や地域住民に対して役割に関する情報を発信している。・各種メディアに対して、本院の教育・研究・診療について情報を発信するため、隔月に1度メディア懇談会を実施している。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
<ul style="list-style-type: none">・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要・各種院内センターを設置し、各診療科から医師・看護師等を派遣しセンターの運営等を実施することにより、連携して対応に当たる体制が構築できている。・院内クリニカルパスを活用し、複数の診療科でチーム医療を推進し協力して対応に当たる体制を有している。・患者支援カンファレンスとして、患者相談部門、安全管理部門から、医師、看護師リサールカー、メディエーター事務職員が参加し、週一回程度カンファレンスを行っている。	